

教育委員会から学校統廃合計画について

学校が大きく変わろうとしています。私たちは、その変化を的確にとらえ、教育の質の向上を図っていかなければなりません。しなければならないことは数多くありますが、当面は次の4つが重点だと考えています。

- ①「これが教育改革だ」ということを示すことができるパイロットスクールをつくること。
- ②「1学年最少2学級が必要」という考え方に立って学校統合を進めること。
- ③「必要な学校施設整備を急いで進めよう」を合言葉に耐震補強、改造、改築を行うこと。
- ④「乳幼児の教育保育は民間で」と考え、幼稚園・保育所を一体化し、民営化すること。

これら全体については次回にご説明しますが、今回は、学校統廃合について述べたいと思います。

■学校統合がなぜ必要か

「学校統合」という言葉をきくと、「どこどこが統合されるんだ」「小さな学校ですっとうまくやってきている」「学校がなくなるのは地域がなくなること」などの声が予想されます。

しかし、大きくは次の3つの理由から学校統合は絶対必要です。

1. 学級数、学級内の児童数には基準があると考えます

学校というところは、いろいろな子どもと、おとな（職員）がいて、様々に変化する人間関係の中で学習し、行事に参加して「生きる力」を身につけるところです。

子どもたちからみて「大勢いるな」と思える人数が必要です。そのためには、「最少でも学年2学級、1学級児童数35人」は必要だと考えています。学年2学級は、年度ごとにクラス替えができる最少の学級数です。学級内の児童の人間関係を新しくするのにクラス替えは有効です。

2. 子どもの数が減っています

5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児	合計
450	373	423	350	352	373	2,321

平成20年4月1日現在の市内の子どもの数です。現在の学級定員は、兵庫県の場合、1～4年生は35人、5・6年生は40人です。一番多い5歳児が小学生になったとき、単純計算では、市内で13学級あればいいことになります。ということは、2学級学校が5校、3学級学校が1校あればいいということです。

次に示す6校統合案で考えますと全体で14学級。3学級学校が3校、2学級学校が2校、1学級学校がパイロットスクール1校となります。今後生まれてくる子どもの数を、いまの0～5歳児の平均が380人とすると、市内で11～12学級あれば対応できることとなります。

3. 財政規模からみても統合は合理的です

学校教育にとって、財政はとても重要なものです。加西市の耐震化の状況は、39.5%で、県内順位は下から数えて3番目です。老朽化した暗い校舎もあります。いまだに鉄サシの校舎もあります。なぜ、計画的に耐震補強・改造・改築ができなかったのでしょうか。財政事情がそれを許さなかったのです。

加西市には、小学校11、中学校4、特別支援学校1、幼

稚園11（供用中は8施設）、保育所9、学校給食センター1の計37（供用中は34）の学校関係施設があります。

供用中の施設について2年に1回、1施設ずつ建替えるとして、建替えが終わるのに68年かかります。1施設が、仮に6億円（施設の平均値）かかるとすると、毎年3億円の投資が必要になる計算です。学校統合は、財政的にみても当然のことです。

施設を建替えるだけでなく、補強や修繕、市費負担職員の人件費、授業や行事で使う備品や消耗品の購入費、電気・ガス・水道代、校庭に入れる砂の代金、これらも市の財政から支出されます。ちなみに、平成20年度の加西市一般会計予算額184億円のうち、教育費（保育・児童福祉分を除く）は14億5千万円（約8%）で、この中から学校教育や生涯学習などへ支出されるのです。

人口が少なく、交付税に大きく依存している加西市の財政の現状では、やはり学校の数を減らして（合理的な数にして）、市民、あるいは広く県民・国民から負担いただいた税を有効適切に使うことが大切です。

■学校統廃合計画表は以下のとおりです

1	北条小学校と富田小学校を統合	
2	北条東小学校は単独校として存続	
3	下里小学校と賀茂小学校を統合	
4	九会小学校と富合小学校を統合	
5	泉小学校と西在田小学校を統合	
6	パイロットスクール（仮称：創新学園）	宇仁小学校、幼稚園、保育所、日吉小学校、幼稚園、保育所一体化

■スクールバスを活用します

スクールバスを活用することで問題は克服できますし、何より登下校の通学安全を確保できます。高齢者の交通の便を含めて、加西市の公共交通機関を充実するきっかけになると思います。

（教育長）

【問合せ】 教育委員会教育総務課 ☎48770

加西病院のコーナー

加西病院WEB サイト <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp/>

三つの願い：コスト、クオリティ、アクセス

アラビアンナイトに出てくる魔人は三つの願いを叶えてくれます。『願い事は三つまで』というのは割と普遍的なシナリオで、日本の昔話にも出てきます。医療制度にも三つの願いがあります。『コスト（費用）、クオリティ（質）、アクセス（受診し易さ）』です。つまり、費用が安く、質が高く、何時でも何処でも誰でも受診できる医療は夢の制度なのです。

この三つの願いには“choose any two but three（いずれか二つは追及できても、三つ同時の実現は無理）”という言葉が続きます。つまり、安い費用で、安易に病院を利用すれば、質の低下を招かざるを得ないという指摘です。これは今の日本の医療崩壊の構造そのものです。我が国の医療は、医療費（国民総生産当り）も医療従事者数（人口当り）も先進諸国（OECD）の中で最下位に近いプア（貧弱）な環境で、世界一の長寿という質を実現してきました。一方、多忙さの中で起こる医療事故の度にバッシング（批判）を受け、労働を強化して安全をあがなっ

てきました。その負担の重さに耐えかねて病院医療の現場から医師が立ち去ってゆきます。7月13日の神戸新聞は兵庫県下の32の公的病院で56の診療科が縮小したと伝えています。

今、日本の医療で急速に受診しにくくなっているのが救急です。北播磨圏や姫路の病院でも、救急の受け入れをどんどん制限しています。病院が無理して救急を受け入れれば、医師の業務負担がオーバーし、医療安全も破綻します。加西病院も例外ではありません。加西病院の医療を守るために、医療者の環境を改善する資金の投資とコンビニ受診の自重が不可欠です。（病院長）



夜間の救急医療では当直医師は寝ないで働き、翌日も通常勤務を行う過酷な労働で市民の命を支えています。安易な救急受診は控えて、待てる場合は翌朝受診しましょう。

新加古川病院計画と加西病院への影響

北播磨の自治体病院が過剰である中、県立加古川病院では、平成21年度の新病院開設に向けて、整備が進められています。

この新病院が開設されれば、加西病院の経営環境は一層厳しくなると考えられます。加西病院のあり方検討委員会からの答申を受けて、本年度中に「加西病院の改革プラン」を策定し、新たな経営方針を決定することを通して、影響を最小限に食い止めたいと考えています。

また、市民の皆様には、加西病院で治療できる病

気は、加西病院で治療してください。昨年、マタニティセンターもオープンし、安心して出産していただける環境も整いましたので、なお一層のご利用をお願いします。

多くの市民の皆様にご利用いただくことで、病院職員の士気は高まり、そのことが患者さんへの思いやりのある、丁寧な医療サービスにもつながります。どうぞ、近くの加西病院をご利用ください。ただし、急患でもない方が、コンビニのように夜間休日に受診されるのは、ただでさえ過酷な医療現場にさらに負担をかけますので控えてください。（市長）

二種混合（ジフテリア・破傷風）予防接種を受けましょう

二種混合（ジフテリア・破傷風）予防接種は、乳幼児期に受けた三種混合予防接種の追加接種として行います。追加接種することで予防効果が高まります。

【問合せ先】 国保健康課健康係 ☎48723

予防接種名	二種混合（ジフテリア・破傷風）予防接種
対象者	小学校6年生（11・12歳）
接種場所	市内予防接種指定医療機関 （接種前に予約を兼ねて、直接医療機関にご確認ください）
接種費用	無料
必要物品	母子健康手帳・体温計・健康保険証（本人確認のため） * 予防接種予診票は医療機関にあります。保護者同伴の上予防接種を受けてください。

